

一般社団法人 日本土壤肥料学会 2017 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2016 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2016 (平成 28) 年度事業報告 (平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壤肥料学雑誌 (会誌) は、第 87 巻第 2 号～6 号、第 88 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 15 編、ノート 14 編、技術レポート 9 編、講座 9 編、解説 4 編、総説 1 編、資料・国内外情報 20 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 2 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.62 掲載論文要旨、合計 482 頁、ほかに第 87 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壤教育活動だよりを含む) 等。
- 2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (欧文誌) は、Vol.62, No.2～No.5-6 (合併号) および Vol.63, No.1 の計 5 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 61 編、短報 5 編、総説 1 編、会誌報文抄録等、合計 573 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 9、正会員 340 (うち海外 24)、学生会員 70 (うち留学生 66)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 21 等であった。
- 3) 日本土壤肥料学会講演要旨集 (第 62 集、300 頁) を 2016 年度佐賀大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

学会編シンポジウムシリーズとして、「土壌における界面電気現象と農業・環境～基礎から応用まで～」を博友社より出版した。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

4 月 4 日、通常総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマを「東日本大震災被災地の農業再生を支える対策技術研究の貢献と課題—5 年後の現状認識—」とし、講演者と演題は伊藤豊彰氏「津波被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」および信濃卓郎氏「原発事故被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」であった。なお、本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

(2) 2016 年度年次大会等

- 1) 9月20日(火)～22日(木)、佐賀大学本庄キャンパスおよび佐賀市文化会館において年次大会を開催した。口頭発表は325課題、ポスター発表は209課題、合計534課題であった。大会への参加者数は803名であった。
- 2) シンポジウムは、公募による7つのテーマのシンポジウムと公開シンポジウム及び大会運営委員会企画による公開シンポジウムを実施した。
 - 2部門：黒ボク土の再考－最新の知見と今後の展望－
 - 4部門：熱帯アジア地域の問題土壌と農業生産
 - 6部門：水田土壌養分動態と温室効果ガス排出からみた冬期湛水の意義
 - 7部門：混合堆肥複合肥料の開発とこれから
 - 8部門：水稲におけるヒ素とカドミウムをめぐる諸問題
 - 9部門：国際土壌年2015から国際土壌の10年へ公開シンポジウム：事故から5年－農業環境・農作物・農業経済の変遷と課題－
公開シンポジウム：堆肥の活用と土作りでまちづくり
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
 - 3部門：バイオ肥料微生物を用いたイネの収量増とそのメカニズム解析
- 4) 佐賀市文化会館において、以下の講演が行われた(9/21)。
 - 第61回日本土壌肥料学会賞受賞者
 - ・ 神山和則：土壌情報システムを利用した農業生態系の評価に関する研究
 - ・ 中西啓仁：イネの鉄栄養研究から出発したカドミウム吸収関連遺伝子群の発見と低カドミウム米開発への貢献
 - ・ 渡邊 彰：土壌有機物の化学構造と動態に関する研究
 - 第21回日本土壌肥料学会技術賞受賞者
 - ・ 熊谷勝巳：積雪寒冷地水田における良食味米安定生産と環境影響軽減のための土壌管理・施肥技術の開発
 - ・ 藤本順子：園芸作物における栄養障害の早期診断法と障害回避技術の開発
- 5) 第34回日本土壌肥料学会奨励賞(岡崎圭毅、小八重善裕、多胡香奈子、早川 敦、南川和則)及び第5回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者(笛木伸彦、本間利光)の記念講演については、佐賀大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者(八木哲生・松本武彦・大友 量・小林創平・三枝俊哉・岡 紀邦)及びSSPN Award 受賞者(Kohei Yamashita・Hiroki Honjo・Mizuhiko Nishida・Makoto Kimura・Susumu Asakawa、Sumio Itoh・Tetsuya Eguchi・Naoto Kato・Shigeru Takahashi)については、佐賀大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。

(3) 2016 年度支部大会

- ・ 北海道支部：秋季支部大会(11/29 於とかちプラザ 帯広市)が開催された。
- ・ 東北支部：支部大会(7/5～6 於山形大学農学部 鶴岡市)が開催された。
- ・ 関東支部：支部大会(12/3 於宇都宮大学峰キャンパス 宇都宮市)が開催された。
- ・ 中部支部：第95回支部例会(3/3 於三重大学生物資源学部 津市)が開催された。

- ・関西支部：支部大会（12/8 於メルパルク京都 京都市）が開催された。
- ・九州支部：支部春季例会（4/27～28 於鹿児島大学 鹿児島市）が予定されていたが、熊本地震（4/14）の発生により中止された。

(4) その他

- ・「第 29 回環境工学連合講演会（5/13 日本学術会議講堂）」を共催した。
- ・日本地球惑星科学連合 2016 年度大会（5/22～26 幕張メッセ）のセッション「流域生態系の水及び物質の輸送と循環－源流域から沿岸域まで－」を協賛した。
- ・日本第四紀学会「考古学，人類学，土壌学とジオパークに関する公開シンポジウム」（6/19 明治大学駿河台校舎）を後援した。
- ・第 26 回環境工学総合シンポジウム（6/29～7/1 金沢市）を協賛した。
- ・「第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/6～8 東京大学弥生講堂）」を共催した。
- ・ポスト国際土壌年巡回展示「土ってなんだろう？」（7/10～31 飯能市ほか）を共催した。
- ・施設園芸・植物工場展 2016(GPEC 7/26～29 東京ビッグサイト)を協賛した。
- ・日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2016（8/3 日本大学生物資源科学部）」を共催した。
- ・第 17 回国際土壌動物学会議（8/22～26 奈良市）を協賛した。
- ・第 18 回国際腐植物質学会国際会議（9/11～19 金沢市）を共催した。
- ・第 60 回粘土科学討論会（9/15～17 福岡市）」を共催した。
- ・第 12 回エコバランス国際会議（10/3～6 京都テルサ）を協賛した。
- ・2016 土壌・地下水環境展（10/19～21 東京ビッグサイト）を協賛した。
- ・日本学術会議農学委員会育種学分科会シンポジウム「気候変動に打ち克つ育種戦略（11/11 日本学術会議講堂）」を後援した。
- ・日本沙漠学会「乾燥地土壌と人々の生業に関わる研究会」（11/15 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス）を後援した。
- ・公開シンポジウム：土壌が地球を救う－地球温暖化対策に向けて土壌の炭素貯蔵と吸収の役割を科学的に明らかにする－（11/30 早稲田大学日本橋キャンパスコレド日本橋ホール）を後援した。
- ・「第 32 回近赤外フォーラム（11/30～12/3 鹿児島大学）」を後援した。
- ・農研機構シンポジウム「水田農業の構造変化に対応する技術革新の方向－現地実証を基点とした農業技術の再構築を考える－（12/6 東京大学弥生講堂）」を後援した。
- ・ポスト国際土壌年巡回展示「土ってなんだろう？」（12/3 日本土壌肥料学会関東支部大会、12/8～10 エコプロダクツ 2016）を共催した。
- ・日本第四紀学会公開シンポジウム「ジオパークと土壌：大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌の役割」（2017.1/28 筑波大学東京キャンパス）を後援した。
- ・農研機構-MARCO シンポジウム「今こそ土壌の炭素貯留～4/1000 イニシアチブとともに」（2017.2/28～3/1 農業環境変動研究センター）を後援した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/14）、論文賞等選考委員会（10/14）および第4回理事会（10/15）において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

第62回 日本土壌肥料学会賞

- ・石川 寛：イネのカドミウム吸収機構の解明とカドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」の開発
- ・久保寺秀夫：九州沖縄地域の各種土壌が有する問題点の解析と管理指針の提示
- ・山本洋子：植物細胞におけるアルミニウム障害ならびに耐性機構に関する研究

第22回 日本土壌肥料学会技術賞

- ・原 正之：家畜ふん堆肥の成型技術に関する研究
- ・藤井弘志：気象変動条件下における水稻の生産性向上のための窒素とケイ酸の肥培管理技術の開発

第35回 日本土壌肥料学会奨励賞

- ・阿部 進：西アフリカ低地の土壌生成学的研究と水田稲作ポテンシャルの実践的評価
- ・上野大勢：植物の重金属輸送に関する研究
- ・杉原 創：熱帯アフリカにおける養分フローに着目した土壌資源管理に関する研究
- ・和田慎也：葉の老化過程におけるオートファジーを介した葉緑体タンパク質の分解と窒素利用効率に関する研究

第6回 日本土壌肥料学会技術奨励賞

- ・岩佐博邦：メタン発酵消化液由来資材の肥料的効果の検証とその施用技術の確立に関する研究
- ・丹羽勝久：大規模畑作地帯における土壌の評価とその活用に関する研究

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・森次真一・石橋英二・山本章吾・沖 和生：水稻栽培におけるアメダスメッシュ気象データを活用した被覆尿素の窒素溶出推定精度
- ・板橋 直：土壌への窒素負荷による河川水質汚濁に対する脆弱地域の区分～霞ヶ浦周辺地域の9河川流域での事例～

SSPN AWARD 受賞者

- ・ Atfritedy Limin, Mariko Shimizu, Masayoshi Mano, Keisuke Ono, Akira Miyata, Hideo Wada, Haruhiko Nozaki, Ryusuke Hatano : Manure application has an effect on the carbon budget of a managed grassland in southern Hokkaido, Japan

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 28 年度日本農学会シンポジウム「山の農学 ―「山の日」から考える (10/8)」に協力した。
- ・日本農学会の法人化に関するアンケートに回答するとともに日本農学会法人化対応委員会に当学会からも委員を出し、協力した。

(2) 日本学術会議関係

- ・1月28日に公表された日本学術会議農学委員会土壌科学分科会による提言「緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性」の要旨を、日本土壌肥料学会の責任において英訳し、学会ウェブページに掲載した。

(3) IUSS、ESAFS 関係

- ・2015 年 12 月 7 日に IUSS において採択されたウィーン土壌宣言「人類および生態系のための土壌」を和訳し、学会ウェブページおよび会誌に掲載した。
- ・日本学術会議農学委員会 IUSS 分科会に IUSS 会長および名誉会員候補者を推薦し、当学会が推薦した小崎 隆氏が IUSS 次期会長に当選した。
- ・IUSS 中間会議 (11/19～25 ブラジル・リオデジャネイロ) に代表者を派遣した。
- ・IUSS 「国際土壌の 10 年」の関連事業としてわが国土壌学の先達 (IUSS 名誉会員) に対しインタビューすることとなり、久馬一剛氏へのインタビューを実施した。

(4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 15
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 21

(5) その他

- ・第 15 回日本農学進歩賞を中尾 淳氏 (京都府立大学) が受賞した (11/25)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、東京大学山上会館で開催した(4/4)。
- ・「国際土壌の 10 年」関連事業を企画・実施した。世界土壌デー (12/5) の前後に行われた日本土壌肥料学会関東支部会社会貢献交流会 (12/3) およびエコプロダクツ 2016 (12/8～10) において、巡回展 (主催: 埼玉県立川の博物館、共催: 日本土壌肥料学会・日本ペドロロジー学会) を行い、国際土壌の 10 年についても紹介した。

(2) 土壌教育委員会

- ・日本大学 (藤沢市) において、(公社) 日本農芸化学会関東支部主催の「高校生のための実験教室 バイオサイエンス・スクール 2016」を日本大学生物資源科学部生命化学科とともに共催した (8/5)。
- ・佐賀大会において「高校生ポスター発表会」を大会 3 日目の 11:30～13:00 に開催した (9/22)。13 課題 (12 校) がポスター発表を行った。うち 1 課題については掲示のみで発表者が参加しなかったが、他の課題については発表者が説明

- し、学会員と熱心な質疑応答が行われた。兵庫県立篠山東雲高等学校にポスター一賞、北海道立岩見沢農業高等学校と福岡県立糸島農業高等学校に優秀賞が授与された。また、参加校のうち希望校 5 校に宿泊費の一部を補助した。
- ・ 関東支部大会（栃木大会）において、高校生ポスター発表会と社会貢献交流会を実施した（12/3）。高校生ポスター発表会には 6 課題（4 校）の参加があり、山梨県立韮崎高等学校が最優秀賞、埼玉県立熊谷西高等学校が優秀賞に選ばれた。社会貢献交流会には 4 団体（5 件）の参加があった。
 - ・ 桐生自然観察の森（群馬県桐生市）に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を寄贈した。

(3) 広報委員会

- ・ 京都大会で開催された公開シンポジウム「土壌はアフリカを養えるのか」の講演要旨を学会ウェブページに掲載した。
- ・ 「エコプロダクツ 2016（12/8～10 東京ビッグサイト）」に日本ペドロロジー学会とともにブースを出展した。
- ・ 「国際土壌の 10 年と関連活動」の項目を設けるなど、学会ウェブページを改訂した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

- 1) 2017 年 2 月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,768 名（うち会費免除会員 90 名、外国正会員 34 名）、賛助会員 37 社、名誉会員 11 名、学生会員 253 名（うち留学生 58 名）、国内団体購読会員 102 団体 合計 2,171 名

- 2) 2016 年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 69 名、学生会員 123 名（うち留学生 24 名）、国内団体購読会員 1 団体 合計 193 名（団体）

退会：正会員 137 名（うち会費免除会員 14 名）、賛助会員 4 団体、名誉会員 1 名、学生会員 125 名（うち留学生 10 名）、国内団体購読会員 5 団体 合計 272 名（団体）

(2) 会議

- 1) 総会：2016 年 4 月 4 日、東京大学山上会館において第 39 回通常総会が開催された。本総会においては、①2015 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2016 年度事業計画案および収支予算案、③総会議事録署名人の選任について審議され、各議案とも、原案どおり承認された。その議事録を会誌 87 巻第 3 号に掲載した。
- 2) 理事会：学会事務所において 7 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、平成 29 年度日本農学会シンポジウムのテーマ案、佐賀大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成案、欧文誌編集委員の交代案、技術

奨励賞の件数の変更案、2016・2017 年度学会賞等選考委員の承認、業務委託先との契約終了および新たな業務委託先の選定と契約、IUSS 次期会長および名誉会員の推薦、IUSS 名誉会員へのインタビュー、土壌肥料若手の会 2016 の支援、若手会員海外渡航費の支援、2016 佐賀大会の決算、2017 仙台大会の予算案、2018 年度年次大会の開催場所・日時・組織体制、学会の国際化に関する諸対応、名誉会員候補者の選考、共催・後援・協賛等の申請、細則 23 条による会費免除の申請、入退会者の承認等について審議し、実施してきた。

- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議 (3/25~4/8) は、メール会議で実施した。佐賀大会におけるシンポジウムの公募に対して 4 件の応募があったが、関連部門に偏りがあり、また数的にも少ないことから、部門長会議からも 3 件提案し、合計 7 件開催することとした。うち 1 件については公開シンポジウムを希望していた。その他、大会運営委員会からも公開シンポジウムが 1 件開催されることとなった。②第 2 回部門長会議 (6/18) においては、佐賀大会のプログラム編成、シンポジウムおよびミニシンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数等について検討された。また、欧文誌への部門による Special Section と Review paper の企画案について検討された。③第 3 回部門長会議 (11/3) においては、議長・副議長の選任、2016 佐賀大会の結果概要、2017 仙台大会の準備状況について報告された。また、進歩総説のテーマを「気候変動 (温暖化) 対策」とすることになった。
- 4) 2016 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、平成 29 年度日本農学賞候補者、第 62 回日本土壌肥料学会賞、第 22 回同技術賞、第 35 回同奨励賞および第 6 回同技術奨励賞の受賞者を選考した (10/14)。その結果は第 4 回理事会 (10/15) での承認を経て、会誌 87 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 5 回理事会での承認を経て、会誌 87 巻第 6 号に掲載した。
- 5) 会誌編集関係：常任編集委員会を 4 回、地域担当編集委員との合同編集委員会を 1 回開催した。①投稿状況については、例年に比べて報文・ノートの投稿数が少ないことから、投稿促進の工夫および総説・解説等の拡充が必要である。②CiNii から J-STAGE への移行についての手続きは終了しており、J-STAGE へのアップロードの仕方について説明会に参加した。
- 6) 欧文誌編集関係：①SSPN 投稿・編集状況が報告された。1~8 月までの投稿数は例年より少なく、また掲載待ち原稿も少ないため、62 巻 5 号と 6 号は合本して発行した。②SSPN 特集については、ICOBTE (62 巻 4 号) が発行され、Rice GHG (水田における温室効果ガス排出削減研究の最前線 64 巻予定) の企画が進められている。また、スペシャルセクションとして「リンを巡る根圏研究の最前線」および「人工改変土壌の物理・化学・生物的反応過程」が提案され、承認された。
- 7) 支部における会議
北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/7 於北海道大学エンレイソウ)、第 2 回支部評議員会および支部総会 (11/29 於とちかちプラザ) が開催された。

東北支部：支部総会（7/5 於山形大学農学部）が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会（12/3 於宇都宮大学峰キャンパス）が開催された。

中部支部：157回支部評議員会および76回支部総会（3/3 於三重大学生物資源学部）が開催された。158回支部評議員会（5/27 於 TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター）が開催された。

関西支部：関西土壌肥料協議会との共催による役員会（12/9 於メルパルク京都）が開催された。

九州支部：支部総会、支部常議員会および支部賞選考委員会（9/21 佐賀大学本庄キャンパス）が開催された。

(3) 業務委託先の変更

- ・財政基盤整備委員会に会長、副会長、会誌編集委員長および会誌担当理事を加えた拡大財政基盤整備委員会を組織し、会誌の編集・刊行および会員管理に関する業務委託先の変更について検討した。
- ・会誌の編集・刊行についてはオンライン投稿・編集システム、会員管理についてはオンラインリレーショナルデータベースシステムを使用することとし、これらシステムを用いた業務に十分な実績を有する会社に業務委託することとした。
- ・新たな委託先の候補4社とのヒアリングおよび見積書を検討した結果、(株)国際文献社と業務委託契約を結んだ（11/1）。

(4) その他

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期5名に渡航費の一部支援を行い、後期3名について支援することとなった。
- ・2018年度年次大会は隅田裕明氏（日大）を大会運営委員長とし、2018年8月29（火）～31日（木）、日本大学生物資源科学部（藤沢キャンパス）において開催することを決定した。